

1. 出題傾向

- ・国語の出題分野は、大きく『言語事項』（35%）と『読解』（65%）とに分かれます。
- ・『言語事項』では、漢字／語句に関する読み書きを中心とした問題のほか、文や言葉の意味／用法等に関する問題を、様々な形式で出題します。
- ・『読解』は、論理的文章（5000字前後）を1つ出題します。設問の内容としては、文章の展開（論理）や要点／要旨の理解を図る問題等を出題します。また、問題形式／解答形式は多様で、接続語や指示語を問うもの、空欄補充や抜き出しのほか、記述形式もあります。

2. 問題構成

- ・国語の試験は、50分間で100点満点です。
- ①『言語事項』の配点は35点分で、漢字がおよそ20題、語句の意味／用法等がおよそ15題です。
- ・漢字は、原則として学習漢字の中からの出題で、単純な読み書きのほかに、熟語の構成を問う問題等も出題します。
- 例) 次の熟語と同じ構成の熟語を、ア～オの漢字を使って二組作ったときに、余る漢字を記号で答えなさい。

多少 [ア 有 イ 長 ウ 弱 エ 無 オ 強]

→ 答え イ

- ・文や言葉に関する問題では、文の成分（主語／述語／修飾語等）、ことわざや慣用句、四字熟語、辞書のひき方、誤字訂正等を出題します。

例) それぞれの [] に漢字を一文字入れると、慣用句を用いた文になります。
ア～オの [] の中で、共通の漢字が入るものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 君が言っていることは [] も葉もないうわさ話だよ。

イ 彼は [] を割ったような性格で、裏表のない人物だ。

ウ [] で鼻をくくったような冷たい態度をとられた。

エ 去年のことをまだ言うなんて、相当 [] に持っているな。

オ 十年ぶりの同窓会で、思い出話に [] をさかせた。

→ 答え ア・エ

例) 次の ____ 線部は、文の成分の何にあたりますか。語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。

「おはよう。」と私は①元気にあいさつをした。②すると、③田中さんはにっこり笑って、「④おはよう。」と返事をしてくれた。私は⑤うれしい気持ちになった。

語群 [ア 主語 イ 述語 ウ 修飾語 エ 接続語 オ 独立語]
→ 答え ① ウ ② エ ③ ア ④ オ ⑤ ウ

②『読解』の配点は65点分で、15題程度の小設問があります。

- ・抜き出し問題で、誤字や脱字がある解答は不正解とします。また記述問題はいずれも配点が高く、部分点はあるものの点数の開きが生じ易い箇所ですので、適切な答え方が求められます。特に条件が付いている場合は、その条件を満たしていないと不正解となります。上限のみ字数指定されている場合は、指定文字数の8割以上で解答することがポイントです。

例) に入る表現を前後の文章から考えて7文字で答えなさい。

例) ____ 線部に「このコミュニケーションには、数字が不可欠である」とありますが、なぜこのような条件が必要なのでしょう。文中の言葉を使って25文字以上35文字以内でまとめなさい。

※理由を問われている場合は、文末に「～(だ)から」「～ため」等を使用して答えるようにしましょう。

3. 解答分析

- ・漢字の読み書きでは力の差が出ました。正確に覚えられるように意識して練習をすることが大切です。
- ・辞書に関する問題(五十音順を答える問題)は、正しく答えられているものが少なかったです。五十音順を正しく理解しているだけではなく、問われている漢字を正しく読むことも必要となります。
- ・正しい言葉遣いを考える問題、ことわざ、文法に関する問題は、よくできていました。特に文法の文の成分についてはしっかり理解できていました。
- ・文章挿入や文章中からキーワードを見つける問題は、答えを見つけることはできていても、正しく抜き出すことができていない解答が多かったです。字の写し間違いによる誤答も多く見られました。
- ・記述問題では、概ね指定された文字数でまとめられていましたが、中には、指示された文字数にとどいていないものもありました。

- ・文末表現に間違いがあったり、主語が抜けていたりして、減点対象となる解答も見られました。
- ・文章の内容をしっかりと読み取れているかどうかを試す選択問題は、正答率が低かったです。長い文章でも、しっかりと理解できるように内容を整理しながら読みましょう。
- ・読解問題の前半は丁寧に答えられていながら、後半は解答すらできていない答案もありました。時間配分も意識できるとよいです。

4. 学習アドバイス

- ・漢字は4年生以上の字を中心に復習しておきましょう。書き取りでは「幼い」「営む」等、送りがなを正しく付けて書けるようにしておくことが必要です。また、読みでは「清々しい」等、中学以降で学習するものも出題の範囲に含みます。
- ・四字熟語、慣用句、ことわざ等の意味が分かるだけでなく、普段の会話や文章で書くときにも使えるようにしておくことが大切です。
- ・語彙に関する問題への対策としては、日頃から言葉に対して興味や関心を持ち、辞書で調べる習慣を身に付けながら、言語感覚を高めていくことが大切です。
- ・新聞に目を通すことも効果的です。
- ・読解については5000字前後の長文になりますので、論説文や随筆文等の文章を中心に速読する力を身に付け、大筋や論旨を理解する力を養っておくことが大切です。また、文章の構成やキーワード等を意識して読めるようにしておきましょう。
- ・読解の設問は、難易度の差が大きいです。基本的な問題（接続詞、指示語等）や内容理解に関する選択問題等では、しっかり得点できるようにしましょう。選択問題の問い方は「一つ選びなさい。」「全て選びなさい。」「あてはまらないものを選びなさい。」等、様々です。問いに沿った解答を心がけましょう。
- ・記述問題では20文字から100文字前後でまとめる問題を数問出題します。配点も高いので、文字数、キーワード、文末表現、主述の関係等も気にかけてまとめられるように練習しておきましょう。